

シリーズ 1,いつまでも楽しめる宿根草の庭づくり

(1) 「微生物を増やす土作りとは」

職藝学院 教授 渡邊美保子

宿根草の最大のおもしろさは、根っこの形の多様性です。ちじれ麺のような根っこ、放射状にどこまでも深く広がってゆく根っこなど、見ていて惚れ惚れします。もし、土の中をお見せすることができたならきっとこう思っていただけはずです。「根っこは楽しい！根っこはすてきだ！あーモグラになれたらなあ！」と。もうひとつ根を観察して気づくこと。宿根草の根は、一年草に比べて長く深いのです。そのため、地面から50～60cm位までは深く耕して土壤改良をすることをおすすめします。

宿根草の庭づくりは、植付け前の土作りで決まります。なぜなら、宿根草は一度植えられてしまうとその場所で何年も過ごすことになるからです。苗半作という言葉がありますが、宿根草は土半作です。土作りがうまくいけば、後はほうっておいても宿根草は元気に育ちます。

それでは、宿根草にとっていちばん理想的な土とは何でしょう？それは、土の中にたくさんの微生物がいる土です。微生物は、土の中の堆肥や腐葉土などの有機物を分解します。根っこは、微生物が分解してくれた有機物を養分として吸収することができます。といっても根っこはあそこに養分があるぞ、いざ出陣！といって養分のある場所をめぐって伸びてゆくわけではないのです。土の粒と粒のすきまを順番に通り返して伸びていった所にたまたま養分があれば幸運、なければ微生物が分解してくれた養分にめぐり会うまでもう1ミリもう1ミリと先端を伸ばします。ですから、たくさんの微生物が土の中にいれば

永遠に養分をいただけるのです。そこで今回は追肥不要で微生物をどんどん増やす土作りの方法を伝授します。

微生物を集めるために必要なのは微生物の住みかとエサです。この住みかになるのが木炭、そしてエサになるのが有機質の完熟堆肥、腐葉土などです。それともう一つ、ミネラルを多く含んだ海草の粉末です。微生物の大好物といってもいいでしょう。これを入れることにより微生物がどんどん増え、植物に必要な養分をつくりだしてくれるため、根っこがたくさん増えるのです。根っこが増えれば養分をより多く吸い上げることができますので、丈夫な宿根草に育つのです。

耕す土の量を6割に対して有機質3割、木炭1割を基準にします。必殺技の海草の粉末は、ご飯にたっぷりふりかけをかけるぐらいの量です。

次回は、いい加減で几帳面な土の耕し方のお話です。

